



桜薫る山から 夕日輝く海辺へ

長い冬を終え、ようやく桜の季節がやってきました。桜並木が瀬戸内海を彩る宇多津町の青ノ山山頂から、夕日スポットとして知られる臨海部へ、春の海を求めて！



うたづ臨海公園の夕日



カラフルな遊具が目立つ遊具広場

うたづ海ホテル ☎0877-49-0860

問

うたづ海ホテル

検索

里海トピックス

おいしい塩は きれいな海から

財団法人宇多津町振興財団 川染順司さん

うたづ海ホテルに隣接する復元塩田は、現在も昔ながらの「入浜式製塩」で塩作りを行っている観光施設です。といっても年間生産量は約2ト、



「入浜式の塩」として販売しており、「ここの塩でなければ」という熱烈なファンがいるほど。ミネラルが豊富でまろやかな味わいが特長で、町名物の塩キャラメルや塩あめに使われているのもここの塩です。

復元塩田で塩作りに携わって7年目という川染さんは、地元出身。昔の技法の苦労や手間を、身をもって伝えています。



川染さん

「子どもの頃から親しんだ海を大事にしたい。海がきれいであればおいしい塩は作れませんから、ゴミが浮いているのを見ると残念な気持ちになりますね。一人一人の意識が大切だと思っています」と語る川染さんの背中には、海とともに歩んできたまちの歴史の深さがにじんでいました。



エリア 宇多津町



点で、遊具広場には町内の保育士が選んだ個性的な遊具16基が勢ぞろい。昼間は伸び伸びと駆け回る子どもたちの声が響いています。

瀬戸大橋を右手に望む海辺に立つのは、「人」をモチーフにした恋人の聖地のモニュメント。この辺りは視界をさえぎるものが何もなく、雄大な海の入りを楽しむには最高のロケーションと言えます。夕暮れ時には、ロマンチックな雰囲気包まれカメラを構えるカップルの姿も！

一日の間に刻々と表情を変える、宇多津の海景色。春の一日を、海とともにゆったりと楽しんでみませんか。

展望台からよく見ると、宇多津町の沿岸部、ゴールドタワーのすぐ東側辺りに、海岸線に沿って緑豊かな一帯があるのが分かります。あれは「うたづ臨海公園」。平成18年四国で最初の「恋人の聖地」に認定され、国内100カ所以上の恋人の聖地の中でも夕日の美しさで有名なスポットです。次の海景色を求めて、さっそく訪ねてみましょう。

展望台からよく見ると、宇多津町の沿岸部、ゴールドタワーのすぐ東側辺りに、海岸線に沿って緑豊かな一帯があるのが分かります。あれは「うたづ臨海公園」。平成18年四国で最初の「恋人の聖地」に認定され、国内100カ所以上の恋人の聖地の中でも夕日の美しさで有名なスポットです。次の海景色を求めて、さっそく訪ねてみましょう。



青ノ山山頂の展望台から宇多津のまち並みを望む

讚

岐富士こと飯野山と背の高さを競った、という伝説が残る青ノ山。山頂がやや平らなのは、けんかの際に弟の飯野山に「頭をスパッと切られた」からとも言われます。

その山頂付近までは、麓の登山口から車で約5分の気軽なドライブ。散歩がてら歩いて登る人もいるそうです。駐車場から山頂広場に出ると、周囲には桜の木がずらり！三角点のある石積みの向こう側がグッと低くなり、その先が展望台です。淡い薄紅色の花に彩られて、宇多津のまちと瀬戸大橋、そして瀬戸内海の春めいた眺めが広がります（右上写真）。

展望台に立つと、視界は180度以上。瀬戸大橋の優美な曲線を中心に、本島、広島といった島々や対岸の岡山県まで抜ける開放的な眺望が楽しめます。実はここは夜景の美しさでも知られるビュースポット。夜になると眼下に広がる宇多津のまち並みが宝石箱のようにきらめき、瀬戸大橋のライトアップが暗い海を照らしてひととき美しく輝きます。